

社会科学研究委員会

1 研究テーマ

社会的な見方・考え方を深める社会科授業の創造

～友の考えや資料との関わり合いを大切に～

2 研究内容

- (1) 社会科における『確かな学力』＝『見方・考え方を深めていく』姿を、授業者の学級（学校）の子どもの姿を通して具体的にとらえ直していく。

□友の考えや資料（番水制度を経験した塩野の古老の話）と関わり合いながら、どれだけ塩野の水田開発に対する先人の熱意や苦労を考えていくことができたかを、子どもの具体の姿から検討していく。

- (2) つける力を明確にした地域素材の教材化を図り、つける力にそった学習問題を設定し、子ども同士の考えや事実（資料）をつなげ関連させて生かしていく支援はどうあったらよいか。

□本地域教材でのつける力は適切であったか、単元構想と授業構想、学習問題はつける力からみて適切であったか、本時の資料（番水制度を経験した塩野の古老の話）や子ども達の考えの取り上げ方やつなげ方等の支援はどうであったかを、子どもの具体の姿から検討していく。

- (3) 問題解決学習の中で、事実（資料）の内容は適切であったか、事実（資料）の提示や読み取らせ方をどう支援すれば、見方・考え方を深めてけるか。

□子どもの予想の根拠が、どういった資料（事実）や体験から語られているのか、検証資料の内容（番水制度を経験した塩野の古老の話）は学習問題を追究していくために適切であったかを、子どもの具体の姿から検討していく。

3 研究の成果

(1) 指導の実際

研究日授業：仁礼小学校4年礼組授業者川上久美子教諭

『塩野の水田開発に尽くした人々』

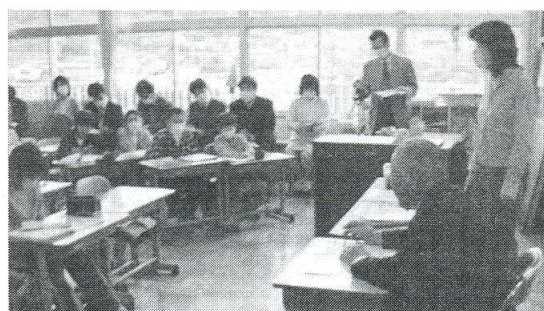
- ① 単元展開における「傾斜地にある塩野水田を実際にみて稲作の工夫を見つけること」、「江戸時代の坂田才兵衛の塩野新田開発を調べること」、「灰野村との3回の水争いを調べること」、「わずかの水を全ての塩野水田に引く工夫を考えること」、「番水係の仕事の体験をすること」を通して、学習問題「なぜ、こんなに苦労してまで、番水制度を行い、水を引いたのだろうか」を設定した。

- ② 子ども達は、それまでに学習してきたことを根拠に、それぞれ予想を考えた。

A：水が大切だったら B：水を公平に引くため C：生きていくため

D：先人が苦労して開発してくれた田だから、稲を育てないわけにはいかない

- ③ 番水制度を経験している塩野の古老に来ていただき、子ども達の考えを関連する予想毎に聴いて



もらい、当時の様子を含めてその予想に答えてもらうという展開で授業を行った。「A、B、Cの予想を持っている子が、Dの考えやそれに関わった古老の話を聞くことを通して、当時の人々の生活自体に関わる理由に加えて、先人の並々ならない水田開発の苦労が、番水制度を始めとする、今に至るまでの塩野住民の水を引く工夫や努力を支えていることを考えることができる」ことを、つける力とした。